

道 -ROAD-

大阪学芸中等教育学校
校長室だより

よく気が付く人

地震・台風・雷・豪雨・洪水など自然現象によってもたらされる災難のことを「天災」といいます。ことわざに「天災は忘れたころにやってくる」というのがあります。天災は災害の悲惨さを忘れた頃に再び起こるものであるという戒めです。最近これをもじった表現ですが、「天災は忘れる間もなくやってくる」という記事を見ました。6月の大阪北部地震、7月の西日本豪雨、9月の台風21号は各地に大きな被害をもたらしました。また、今夏の猛暑日は「この暑さも一つの災害と認識している」と気象庁がコメントしています。

近年の地球温暖化による異常気象やたくさんの火山がある日本では、いつまた大きな災害が襲ってくるかわかりません。防災に対して押さえておく考え方として、「自助」「共助」「公助」の三助があります。学校でも合同避難訓練や防災学習の取組みも行っていますが、いざという時に、自分の命を守るためにはどのようにすればいいのか。また、中高生として、自分の地域でどのような役割を果たせばいいのか。そういう心構えや防災意識を持つことの重要性を改めて考えて欲しいと思います。

話は変わりますが、以前ある有名企業の人事担当者のお話を聞いたことがあります。「会社はどのような人を採用したいか」というテーマでした。まず1番にあげられたのは「時間を守れる人」でした。2番目は「ルールを守れる人」、3番目は「よく気が付く人」でした。

通勤電車の車内での光景です。3人の高校生が大きなスポーツバックを座席に置いて座っていました。次の駅で乗客が乗ってきました。一人は、ドアが開いてすぐにバッグを膝の上に置きました。もう一人は、乗客がそばまで近づいてきたのを見てバッグ床に置きました。最後の一人は、乗客に声を掛けられて初めて行動に移しました。皆さんなら、どのような行動をとるでしょうか。

また、別の日に見かけた光景です。若い女性が足を組みながらスマートホンに夢中になっていました。混雑していないときはよかったです。だんだん混んできて足を組んだままで、人がすり抜けるように通って行きます。やがて、男の人が女性の足を蹴るように通った時に初めて気が付き足を引込みました。

ドアを開いた瞬間にバッグを膝の上に置いた高校生のように、「**変化の気配を感じてすぐに行動を起こせる人**」が「よく気が付く人」です。

以前、東館職員室前の廊下で次のような光景を目にしました。ある先生が、貴重品を入れるケースを両手で持って職員室の入口に近づいています。すると近くにいた女子生徒が友だちとの話をやめて、入口の扉をサッと開けました。先生が「ありがとう」と言うと同時にその扉を閉め、何もなかったようにまた友だちと話を始めました。本当によく気の付く生徒だなと感心したのを覚えています。

このように「よく気の付く人」は、**周りの空気が読めてとっさの判断**が出来ます。前述の人事担当者も話をされましたが、将来大きく成長していく人ではないでしょうか。

皆さんが伸びていく成長の源になるのは、この「気づく心」です。そして、この「気づく心」は普段の生活の中で培われます。家庭や学校での生活の中で、周りの人たちへの気配りや目配りを怠らずに「気づく心」を育ててください。